

昭島市立清泉中学校 令和8年度 学校経営方針

昭島市立清泉中学校長 佐藤 晴美

I はじめに

「Doing から Being へ」

～あなたが何かできるから、何かをするから大切なのではなく、あなたがここにいてくれること それ自体が大切なのです～

II 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、社会において信頼される人間性豊かな生徒の育成を目指す

「豊かに、たくましく そして 創造的に」

社会で自分らしく生き抜くために

- ・心、感性をしなやかにして「豊かさ」を
- ・しなやかさのある「たくましき」を
- ・しなやかに考え「創造的に」

III 経営理念

- 15歳の姿に責任をもつ
 - ・義務教育修了後に、生きて働く基礎的・基本的な学力が身に付く指導・支援を充実する。
 - ・小中9年間の義務教育の在り方を小学校と連携し「あたり前のことをあたり前に」、そして生徒個々の可能性を引き出していく。
 - ・上級学校や企業、地域等と連携し、アントレプレナーシップの考え方も取り入れながら、キャリア教育を推進する。
- 生徒と教職員が心を通いあい、学びあい、助けあい、励ましあうことを通じて、人とのつながりあいを大切に、互いを高め、成長しあう

5つの「あい」+α I ・ （関わり）あい ・ 相（手） ・ 挨（拶） ・ 愛

*+αとは、ここに挙げた5つ以外にも自分自身が大切にしたい「あい」がある。
- 生徒も教職員も考え、行動する
 - ・自ら考え、その考えを互いに伝え合う。
 - ・他者にメリットとデメリットの軽減方法を説明する。
 - ・他者の考えを聴き、自らの考えを深化させる。
 - ・以上の思考の流れを踏まえ行動化（表現）する。

*SDGs等、地球規模の課題にも思いを馳せ、今の自分にできることを実践する
- 地域学校協働本部を立ち上げ、地域とともにある学校をめざす
 - ・学校に関わるすべての大人（生徒、教職員、保護者、地域）が協働し次世代の地域の担い手を育てる。
 - ・学校に関わるすべての者（生徒、教職員、保護者、地域）の考えを互いに聴き合い、尊重しながら、よりよい方策を学校として判断していく。

- 生徒の主体性を伸ばす指導を重視する
 - ・生徒の発想を学級・学年経営や学校経営、さらには地域との関わりにつなげる。
 - ・生徒の自治的活動を重視し、生徒会活動等による取組の深化を図る。
- 問題行動は組織的に毅然として対応し、保護者及び関係機関と適切な連携を図る
 - ・当該生徒の望ましい学校生活への適応のステップとして捉える。
 - ・生徒の可能性を信じ最後まで根気強く対応する。
- 次代を担う子どもたちの豊かな学びと健やかな成長に向けて、教職員の心身の健康保持の実現と教職員が誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備し、教育の質の維持と向上を図る

Ⅳ めざす学校像

清泉中に関わるすべての者にとって「真に楽しく」、「学び、集いあえる」学校の実現をめざす。

- 1 学校は「成長を実感できる場」である
- 2 学校は「自己実現できる場」である
- 3 学校は「夢や希望をはぐくむ場」である
- 4 学校は「安心して安全に生活できる場」である
 - *安心感があり安全に学校生活（集団）を送るためには、ルールを守り（ダメなものはダメ）、マナー（互いを思いやる心）のある環境を教職員・生徒・保護者・地域とつくっていく
- 5 学校は「『意外性』と『多様性』を生かしていく場」である

Ⅴ めざす教師像 【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】 【自らが範を示す教師】

- 1 生徒一人一人を大切にする教師 （声を聴く、対話から導き出す）
- 2 1時間1時間の授業を大切にする教師（声を聴く、授業の質を向上する）
- 3 生徒・家庭・地域から信頼される教師（声を聴く、自らの背中で範を示す）
- 4 「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師
（自分の考えを適切に伝える、仲間の声を聴く、意思を統合する）
- 5 清泉中を愛する教師 （清泉プライド！）

(参考) 指導・支援のポイント

※1～5に共通する内容

- 「豊かな」学びの追求・追究
- 「たくましく」生き抜いていくための基礎・基本の力の育成
- 「創造的に」固定概念にとらわれることなく、自らの考えを大切に、既習事項や自らの経験を生かし、行動していく機会の設定

1 学習指導

- 「学ぶ」に対する基本的な姿勢を確立する
 - ・授業スタイルを確立する
 - ・各教科等の基礎的・基本的学習内容の確実な定着を図る
 - ・家庭学習の定着を図る
- 自らの考えを生かす「学び」がある（主体的な学び）
- 「何のために」を意識する「学び」がある（目的意識）
- 個別最適な学びがある（指導の個別化、学習の個性化、ICTの効果的な活用）
- 協働的な学びがある（対話的な学び、課題解決に向けた協働）
- つまずきをチャンスに次の手立てを考える「学び」がある（自己調整力の育成）

2 生活指導・進路指導

- 「ことば」への意識を高める *SNS等会話以外の「ことば」も含む
- 生徒との対話（非言語も含む）により生徒理解を深める *誰にとっても分かりやすい、明確な指示
- 規範意識のある自己肯定感、自己有用感を醸成する
- いじめをはじめとする諸問題に対して、見逃し「0」・未対応「0」とする *組織的対応であること
- 主体的に考え、他者と（状況に応じては自分と）の対話を通じて判断し、行動する機会を見守る
- 自分の可能性やよさ（強み）を考える場面がある
- 体験活動や地域人財（材）とふれ合い、学ぶ機会を積極的に位置づける

3 特別活動

- キャリア教育（アントレプレナーシップ）の視点を位置づける
- 生徒主体の自治的活動としての委員会活動をさらに推進する
- 生徒が考え、決定し、実行する（守る）活動を重視する
- どの生徒も大切な学級・学校の一員であることを意識できる環境をつくる
- 生徒の「よさ」や強みを生かし、可能性を引き出し伸ばす学級経営や部活動経営を行う

4 その他

- 教職員自身も自己の人生を楽しむ
 - ・教職員も「学ぶ」ことを楽しむ（職に関わる自己研鑽だけではなく、趣味も含めて）
 - ・教職員自身も「ライフ・ワーク・バランス」を重視する。
 - *このことは日々の授業の質の向上や生徒一人一人に丁寧かつ誠実に向き合うための心身の余裕にもつながるだろう
 - *このような教職員の姿を生徒に示すことで、生徒の職業観・勤労観につながり、将来への夢や希望が豊かに明るいものとなるだろう
- 清泉中学校の教職員集団としての「同僚性」を高める（服務事故「0」、新しい学校づくり）
- 本学校経営計画を踏まえ、清泉中学校の教職員として、組織的に考え、行動する
- コミュニティ・スクール及び地域学校協働本部を設置する利点を生かし、社会に開かれた教育課程を推進する
- 誰一人取りこぼさない教育を実践する
- 障がいの有無に関わらず特別支援教育を礎に、誰にとっても分かりやすく安心できる指導と支援を行う
- 「つよいつながり」だけではなく「ゆるいつながり」も意識した学級・学年経営を重視する